

		現在の取組及び状況	判定	今後の改善計画・目標
保育内容				
全体的な計画の作成				
1	保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	全体的な計画は、保育の方針や目標に基づいて作成している。	A	保育の実態や、子どもの状況、発達段階を踏まえ全職員で共通理解をしていく。
環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開				
1	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	「食べる」「遊ぶ」「眠る」の目的に合わせた環境設定をしている。	A	次年度に向け、年齢にあった環境設定を考えながらクラスの生活の場を整えていく。
2	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	保育会議の中で子どもの様子を伝え合い、園全体で共有することで個々に応じた保育を行う環境作りをした。	A	全職員が全園児のことを把握し、子どもたちひとりひとりに合わせた保育を提供していく。
3	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	子どもが過ごしやすい保育環境を設定し、自らやってみようとする意欲を育てている。	A	個人差に配慮した環境の工夫や自ら進んでやろうとする援助の工夫をする。
4	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	子どもの興味・関心や「やってみよう」遊びを実現できるように設備や玩具を整えている。	A	園庭の改修を行う為、環境を整え戸外遊びを充実させていく。
5	乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	スキンシップをとり、一人ひとりが安心して過ごせるように配慮している。また、安全に探索活動が楽しめる環境を作っている。	A	個々の生活リズムに合わせて過ごしながらか安心して友だちや保育者と関わる経験ができるようにしていく。
6	3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	自分でやりたい気持ちを大切に、基本的な生活習慣を身につける土台作りをしている。	A	保育室の環境を整えることで、身の回りのことをやってみようとする意欲を育てていく。
7	3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	行事などを通して、3～5歳児が交流する機会を作り、親しみを持ったりお話をしたりする経験を重ねている。	A	行事以外でも、異年齢で関わる機会を作り、異年齢で関わる楽しさ、刺激を存分に感じられるようにする。
8	障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	個々の得意や苦手を理解し、時には個別の声掛けを対応することで安心して過ごせるようにしている。	B	子どもの発達や障がい児への理解を深めるため研修を行ってきたい。
9	それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	早番保育や遅番保育の充実をしたり、在園時間が長い子は、個別に休息などがとれるように配慮している。	B	早番、朝保育、夕保育、遅番では、子どもの人数や様子によって楽しく過ごせるような工夫や環境設定をしていく。
10	小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わり方に配慮している。	年長児は「10の姿」を意識した保育を進めながら、卒園児について小学校と連携をとることで安心して就学が迎えられるようにした。	A	引き続き「10の姿」を意識した保育を進めながら、就学に向けた話や活動を取り入れることで子ども達の不安を取り除いていきたい。
健康管理				
1	子どもの健康管理を適切に行っている。	健康観察カードを活用し、子どもの体調の変化にいち早く気付けるようにしている。	A	保育室の消毒や清掃を行い、清潔な環境の中で子ども達が過ごせるようにしたい。
2	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	内科検診、歯科健診は年に2回ずつ行い、実態を把握している。	B	指摘されたことやアドバイスを保護者に伝えることで連携を取ってきたい。
3	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	現在は食品アレルギー疾患がある子どもはいないが、常にアレルギー対策を全職員で共有していく。	A	入園時に食材チェック表を配布し、記入してもらうことでアレルギーに対応する体制を作っていく。
食事				
1	食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	夏野菜の栽培やクッキングを通して食材に関心を持てるようにしている。食事の時間は楽しい雰囲気の中で食べられるよう工夫している。	A	栽培やクッキングをする機会を作り、関心を深めることで様々な食材を食べようとする気持ちを育てていく。
2	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	行事食や毎月の誕生会特別メニュー、コリンメニューを用意して楽しみが持てるようにする。	A	今後も楽しく食事できるよう子どもたちにニューのクエストをとるなどして工夫していく。
子育て支援				
家庭との緊密な連携				
1	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	毎日、連絡ノートや口頭で子どもの様子を伝え合っている。	A	今後もエピソードなども交えて、保護者の方により安心して頂けるように様子を伝えていく。
保護者等の支援				
1	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	困った時だけでなく、普段から積極的に声を掛け、コミュニケーションをとっている。	A	今以上に保護者の方からも話しかけやすい雰囲気作りを意識していきたい。
2	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	毎朝視診を欠かさず行い、日々子ども達と丁寧に関わることで、子どもの小さな変化にすぐに気づけるようにしている。	A	保護者の様子や子どもの仕草など、ちょっとしたことも気かけ、常にアンテナを張っている状態にしていきたい。
保育の質の向上				
1	保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	保育会議を行い、1か月の計画や反省を伝え合うことで保育の改善や質を高める見直しの機会としている。	B	職員が興味のある研修を受けることができる体制を整え、学んだことを保育に活かしたり、専門性を高めたりできるようにしたい。